

# Letter for Members

【コンテンツ】

●第119回学術大会 in 東京 2010…………… 205

## 社団法人日本補綴歯科学会 第119回学術大会・総会 in 東京 2010 メインテーマ「咬合・咀嚼が創る健康長寿」

### 大会長 志賀 博

この度は、6月11日(金)、12日(土)、13日(日)の3日間にわたり、東京ビッグサイトで開催された第119回学術大会・総会の運営を務めさせていただきましたが、会員の皆様のご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまをもちまして、約2,300名のご参加をいただき、成功裡に無事終了することができました。大会運営のお世話をさせていただいた日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座と歯科補綴学第2講座を代表し、心より感謝申し上げます。

本学術大会のメインテーマ「咬合・咀嚼が創る健康長寿」は、本邦の少子高齢社会のなかで健康長寿できわめて重要な役割を担う咀嚼機能の回復を主な目的として歯科臨床で主軸となる咬合学の重要性について、広く社会にアピールすべく、第18期日本学術会議咬合学研究連絡委員会が2004年に提言し、2005年の第113回学術大会からメインテーマとして継続されてきました。矢谷博文学術委員長のご提案により、一区切りをつけるべく、この提言の代表者であり、第18期日本学術会議会員であった日本歯科大学生命歯学部小林義典教授に特別講演を依頼し、補綴歯科臨床が健康長寿に果たす役割についてまとめていただきました。メインシンポジウムは、咬合・咀嚼と脳機能、咬合・咀嚼と睡眠の2つのテーマについて、講演と総合討論により、咬合・咀嚼



懇親会にて挨拶する志賀 博大会長

が生体に及ぼす影響を考えていただきました。

海外特別講演は、トゥルク大学のヴァリット教授にお願いし、「ファイバー補強コンポジット素材による歯科補綴学と再建医学の未来」に関してご講演いただきました。

臨床シンポジウムは、土曜日と日曜日に同一会場で開催させていただき、「オッセオインテグレーション獲得中の咬合管理」、「ジルコニアセラミック修復による審美補綴歯科治療成功の鍵」、「超高齢社会におけるリハビリテーション」、「補綴歯科治療の長期症例から学ぶ」について、活躍されている臨床家の先生方に補綴歯科臨床の実践的、具体的内容をご教示いただきました。臨床スキ

ルアップセミナーは、総（全部床）義歯製作時の印象採得に関するスキルの向上を目指した内容でご講演いただきました。

歯科治療後の機能検査結果は、患者様への治療効果の客観的な説明はもとより、歯科医師自身の治療効果の把握や将来の治療時期の判断に寄与するものであります。そこで、本学術大会では、手始めとして有床義歯補綴に焦点を当て、「口腔機能の維持を主眼とした義歯の長期的管理」について、ミニシンポジウムを開催させていただきました。

本学会では、これまでの統計セミナーで得られた知識をもとに、歯科補綴学分野のデータを分析するために必要とされる統計学の基礎から応用までを実際のデータを用いてまとめた「歯科臨床研究の統計ガイド」を昨年10月に発刊することができました。そこで、研究セミナーでは、「医療統計の基礎」について、発刊に関わった先生方にわかりやすくご講演いただきました。

日本学術会議共催シンポジウムは、歯学を含む融合領域研究の重要性をご理解いただきたく、「医歯工学融合領域研究のすすめ」のテーマ、専門医研修会は、インプラント補綴治療におけるチームプレーの重要性について、「審美歯科におけるチームプレー Esthetic Zone における天然歯・インプラント補綴」のテーマ、市民フォーラムは、口腔ケアにおける認知症の理解と快適な入れ歯ライフのために、「高齢者の食べる機能を支えるために」のテーマでそれぞれ日曜日の午後に開催させていただきました。

6月中旬の梅雨の時期の開催のため、雨を覚悟していたのですが、幸いにも天候に恵まれ、多数のご参加をいただき、かつ活発な討論がなされ、充実した学術大会になりました。

今回は、経費節減のため学術大会・総会の運営を口腔保健協会コンベンション部へ委託せずに大会校と事務局で行わせていただいたため、何かと不行き届きな点があったかと存じますが、何卒ご寛容のほどお願い申し上げます。また今回の講演（口演）会場は、第1会場（国際会議場：1,000席）、第2会場（576席）、第3会場（500席）を用意させていただきましたが、各会場ともに盛況であり、いくつかの講演では、立ち見が出る状況でした。特に専門医研修会は、最も大きな国際会議場で開催させていただきましたが、立ち見でも足らず、会員の皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたこと、申し訳ない思いで一杯であります。次回以降は、より大会場での開催、



小林義典教授による特別講演の様子（第1会場）



特別講演にて座長を務める佐々木啓一理事長



盛況となった会場の様子（第2会場）

別会場でのビデオ放映、複数会場での開催などの対策を講じていただくよう学術委員会にお願いする所存であります。

末筆ではございますが、社団法人日本補綴歯科学会の一層の発展と次回の第120回大会のご盛會を心から祈念し、第119回大会のお礼ならびにご報告とさせていただきます。